

2020

Cultural Policy Concentration,
Public Policy Program,
National Graduate Institute for Policy Studies



政策研究大学院大学
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE
FOR POLICY STUDIES

公共政策プログラム
文化政策コース

政策研究大学院大学

公共政策プログラム 文化政策コースは、

日本で唯一、公共政策としての

文化政策が研究できる教育プログラムです。



文化観光



ひとづくり



まちづくり



文化産業

文化資源（ミュージアム、劇場、歴史文化遺産、フェスティバルなど）を創り、守り、そして活用して、地域社会に貢献する。

文化政策

文化の力を地域の持続的な発展につなげる

21

世紀における日本の文化政策は、日本文化の創造と発展、より豊かで魅力のある社会の創造、そして新しい経済的価値をはぐくむことを政策課題として追究する必要があります。

また、文化政策の企画立案、実施に当たっても、より広く地域のニーズ、民意を反映し、効率的かつ効果的な運営が求められています。

文

化や芸術は社会の特殊な一部分ではなく、新たな価値を生み出す経済社会の重要な資源の一つとしてとらえられる必要があるでしょう。

文化政策研究は、文化芸術の振興や文化遺産の保存・継承・発展に加えて、ミュージアムや劇場など文化施設とまちづくりとの連携、アートフェスティバルや歴史文化遺産を活用した交流人口の拡大など、多岐にわたる実践的課題を対象として行われる必要があります。これらの研究を通じて、文化資源を地域活性化や、ブランディング、ひいては地域の持続可能な発展につなげることができると考えています。

地

域コミュニティとそこに住む人々の日常生活に密着し、公共政策学、公共経済学に理論的基礎を置きつつ、マネジメント論、マーケティング、オペレーションズ・リサーチなど他分野での研究成果なども取り入れ、仮想市場評価法（CVM）、コンジョイント分析、あるいは経済波及効果分析などの定量的評価法も応用しながら、実務関係者・団体との密接な連携の下、具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討します。

文化政策コースにおける3つのポイント

1 フィールドトリップ



サントリーホール、国立劇場、新国立劇場、東京国立博物館、東京芸術劇場、江戸東京博物館、森美術館、東京文化会館、国立新美術館、金沢21世紀美術館、(公社)企業メセナ協議会、富岡製糸場と絹産業遺産群、小江戸川越蔵造りの町並み 他

2 セミナー



伊東 豊雄(建築家)、落合 陽一(メディアアーティスト)、青木 保(国立新美術館館長)、安藤 裕康(国際交流基金理事長)、水之江 和同(文化庁調査官)、田中 浩一(劇団四季取締役)、松本 忠(プロダクトマネージャー、経済協力開発機構(OECD))、福地 茂雄((公財)新国立劇場運営財団理事長)、南條 史生(森美術館館長) 他 ※敬称略、肩書は当時

3 グローバルネットワーク



海外先進事例の紹介・国際文化政策比較研究、六本木DMOとのコラボレーション<インバウンド推進のための日本文化紹介モデル事業> 他

研修事業

2017年度 2018年度 2019年度
文化庁 大学における文化芸術推進事業
課題解決型のシアターマネジメントに
向けた次世代リーダー育成のための
プログラムの開発

本事業は、公立劇場で制作を担うミッドキャリア現職者で各劇場から派遣される者を、文化のニーズを汲み取り説明責任が果たせる次世代リーダーとして育成するとともに、そのための研修プログラムを開発するものです。



■ 研修事業専用ページ

<https://www.culture.grips.ac.jp/project2018>
※学生も試聴できます。

指定科目および修了要件

政策論文演習（秋冬 4単位）

政策論文は、実務に即して具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討するものです。指導教員によるきめ細やかな指導の下、学問的方法論に基づいた客観的、合理的な分析を行い、ポリシー・ペーパー（政策提言）をまとめます。また、特定課題をより深く研究することを希望する学生には、フィールド・リサーチを必要とする修士論文の執筆も可能です。

文化政策研究の基礎（春 2単位）

文化資源論（秋 2単位）

21世紀博物館工学（春 2単位）

シアター・マネジメント（秋 2単位）

グローバリゼーションと文化政策（夏 2単位）

公共政策プログラムに掲げる授業科目のうち、各区分の最低取得単位数を満たしつつ、合計30単位以上を修得するとともに、特定の課題についての研究成果の審査に合格し、かつ最終試験に合格することを修士課程修了の要件とする。

また、コース指定科目10単位を修得するとともに、文化政策コースに関連する特定の課題についての研究成果の審査に合格することをコース修了の要件とする。

※詳しくは本学ホームページ（<http://www.grips.ac.jp/>）の要覧をご参照ください。

■ 課題研究例

- IS010957:2009 (ISMNコード)の日本への導入の意義とそれに必要な条件設備に関する考察
—著作権インフラの整備に向けて— (2018年度修士)
- 日本におけるアーティスト・イン・レジデンスが来訪者に与える効果に関する検討
—全国調査とPARADISE AIRでの事例研究をもとに— (2018年度修士)
- むらづくりする人間国宝 —重要無形文化財保持者の工芸村構想を活用した地域づくり活動の成立条件— (2017年度修士)
- 史跡活用における住民協働実現に向けた施策の検討
—群馬県保渡田古墳群・長野県森將軍塚古墳の活動団体を例に— (2017年度修士)
- 日本の劇場・音楽堂等におけるソーシャルメディア活用促進のための研究
—「人々の共感と参加」を促す活用例から運用体制の整備まで— (2016年度修士)

教員紹介

文化は、豊かで魅力ある社会をつくる源泉です。この文化を創造、継承、発展させていくために、定量的手法も用いながら制度設計や政策評価を行っています。文化の力を感じ、文化振興に意欲的に携わろうとする皆さん、私たちと一緒に学んでみませんか。

専任教員 垣内 恵美子

教授、コースディレクター

一橋大学を経て、2004年より現職。専門は文化政策。（一財）地域創造理事。芸術文化振興基金専門委員会委員。国土審議会委員。ICOMOS会員。茨城県、神奈川県、富山県、仙台市、川崎市、横浜市他、多くの自治体で文化振興条例・計画策定、文化施設運営、指定管理、評価にかかる委員を務める。



特任教授 今野 雅裕

政策研究院参与、名誉教授、元副学長、元学長特別補佐、文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官
専門分野：教育政策、生涯学習論



非常勤講師 岩本 渉

国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長
元ユネスコ本部社会人文科学局社会科学政策研究部長、教育局中等・職業技術教育部長
専門分野：国際教育文化交流

協力研究者 Xavier Greffe



ソルボンヌ大学
名誉教授（経済学）
OECD顧問

協力研究者 Klaus R. Kunzmann



ドルトムント大学
名誉教授（都市計画）
元欧州都市計画
学会長

協力研究者 Kamil Zeidler



グダンスク大学
教授（法学）
ICCROM理事

協力研究者 Seung-yong Uhm



韓国文化資源研究所
所長（社会学）
元韓国文化財庁局長

非常勤講師 佐藤 敦子

高崎経済大学准教授
元ゴールドマン・サックス証券東京支店マネージ
ング・ディレクター資本市場本部長
専門分野：アートマネジメント、国際経営



非常勤講師 森 洋久

東京大学総合研究博物館准教授
専門分野：科学文化史、情報哲学、情報工学

目指す学生像

企画立案ができる

地域に展開する文化資源（ミュージアム、劇場、歴史文化遺産、アートフェスティバルなど）を活用し、住民にとって最適な施策を立案できる

説明責任が果たせる

アウトカム、KPIなどを含め、施策の社会的影響、意義をわかりやすく簡潔に説明できる

論理的思考ができる

そのために必須な論理的思考と方法論を身につけ、具体的事例に基づき、施策の効果を分析できる

対象者

文化政策や文化関連活動（アートマネジメント、ミュージアムマネジメント等を含む）に携わる行政官や民間の関係者、文化施設、文化事業のマネージャー、専門研究を目指す学生等。

■ 在学生・修了生の主な派遣元等

文部科学省、文化庁、静岡県、茨城県、宝塚市、川崎市、武蔵野音楽大学、米国大使館、新国立劇場運営財団、マザーアース株式会社、鳥取県、飯田市、徳島県 等

在学生・修了生の声

修了生

春日 宇光さん

2017年度修了
飯田市教育委員会
生涯学習・スポーツ課
文化財保護係



私は地

域にある文化財の活用策を研究するため、当コースを選択しました。1年間の学びの中で、地域資源として文化財が持つ価値は何か、その価値を発揮するためにどのような政策的アプローチが必要かという問いを設定し、自分なりの結論に至ることができました。

修了生

上田 修大さん

2017年度修了
鳥取県東部振興課



国内外を問わず多様な地域から集まった学生は、文化のみならず各種領域に関心を持ち、国や地方自治体、あるいは民間企業やNPOでの業務経験があります。こんな同志が集う学際的な環境において、お互いに議論をたたかわすことができます。そんな環境に身を置きたい方に、GRIPSをオススメします。

修了生

水上 颯葵さん

2018年度修了
東京急行電鉄株式会社



学部では作曲が専攻でしたが、芸術を別の視点で見てみようと思学しました。GRIPSでは、文化政策はもちろん、経済学や街づくり等、新たな知見を得ることができました。在学時の多様な経験や人脈は、現在の仕事にも活かしています。

在学生

高橋 朋也さん

2019年度入学
徳島県東京本部



文化政策の視点から持続可能な社会の実現について研究するため、GRIPSに入学しました。GRIPSでは、科学的根拠に基づいた政策立案能力を磨くとともに、政策現場の第一線で活躍する先生や学生と議論を深めたいと考えています。

修了生

岩本 京子さん

2018年度修了
マザーアース株式会社
代表取締役社長



文化政策コースは、幅広いテーマを扱います。一方、文化の研究で数値化は難しい点も有り、ヒアリングや現地調査等を行いエビデンスを固めて論文に仕上げます。その過程で多角的に多くのことを学べるのが文化政策の魅力だと思います。

■ 学生の進路

文化庁、各自治体、高校・大学 その他学術機関、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、東京大学総合研究博物館（特任准教授）、総合研究大学院大学、ボストン・コンサルティング・グループ、日本政府観光局、株式会社NHKエンタープライズ、財団法人日本映像国際振興協会、東日本旅客鉄道株式会社、サントリーパブリシティサービス株式会社、第一法規株式会社出版、株式会社 paperboy&co、京都精華大学（特任講師）、鳥取大学（准教授）、独立行政法人日本芸術文化振興会、東京急行電鉄株式会社 等

